

パース・ウィルキャッツ監督、選手たちの声

世界的にも高いレベルにあたるオーストラリアの国内リーグで、昨シーズン優勝したパース・ウィルキャッツ。連覇を目指すリーグの初戦を目前にした監督、アシスタント・コーチ、選手たちに車椅子バスケットボール、そして今シーズンの目標をインタビューした。

Logos Courtesy of The Perth Wheelcats



豪州代表監督も兼任する
ウィルキャッツの闘将
ベン・エトリッジ 監督

Q：パース・ウィルキャッツの監督を始めたのはなぜですか？

A:私は15歳の時からバスケットボールをやっていて、州リーグに250試合出場しましたが、引退を考え始めた時、バスケットボールには何らかの形で関わっていきたくて思っていました。その時に、パース・ウィルキャッツの監督をやりたいという話があったからです。

Q：車椅子バスケットボールで大切なことは何ですか？

A：バスケットボールに1番大切なパスやシュートの基礎がしっかりしていなければなりません。また、一般のバスケットボールは1人の上手い選手が形勢を逆転することも可能ですが、スペースが限られている車椅子バスケットボールでは、1人の選手がシュートをするまでに他の選手が相手チームの選手をブロックするなど、選手間でしっかりと意思疎通を図って1人1人が役割を果たさなければいけません。

Q：これまで、指導に大変だったことはありますか？

A:この競技は、車椅子の操作が勝敗の重要なポイントとなります。健康者の私にはまず私自身も車椅子に乗って州リーグなどでプレーして、車椅子の動かし方や選手たちの視点を学ぶことが必要でした。また、車椅子バスケットボールの古い型にはまったプレーを、私が求める新しい型に変えるのに数年間かかりました。車椅子の選手たちへの偏った先入観というものは、幼い時から車椅子の父親を見て育ったので、人間それぞれが異なる人生を持っているように「それが選手たちの人生なんだ」という考えを持ってい

たのでありませんでした。私は、選手たちを1人の「バスケットボール選手」として教えています。良いプレーをしたり失敗したり、疲れたりするのは、健康者のバスケットボールも同じですから。

Q：オーストラリアの車椅子バスケットボールのレベルは世界上位にあります。その理由は何だと思いますか？

A：近年各州にWheelchair Sports Association（車椅子スポーツ協会）のような障がい者にスポーツの機会を与える団体が設立されたのと、自由にスポーツに参加できるオーストラリア独自の文化がもともとあったことが、車椅子バスケットボールの近年のレベルアップにつながっていると思います。

Q：パース・ウィルキャッツの長所は何だと思いますか？

A：激しい練習についてこられるタフさと、チームワークがとても良いところだと思います。また、選手全員が高い能力を持っているので、チーム内の競争が激しいため、選手層が厚いのも強みです。

Q：岩野選手はどのような選手ですか？

A:彼は23年間の車椅子バスケットボールの経験を持っているので、コート上ではチームにとっての自分の役割や試合の流れなどをとても良く理解しています。また、彼のプレーは若手の選手にはとても良い見本になるので、彼がいると若い選手へのコーチがもう1人増えたような感じがしますね。

Q：今シーズンの目標は何ですか？

A:私個人の目標は、今季もリーグ予選で優勝すること、決勝シリーズで優勝すること、そして今年10月に北九州市で行われる世界クラブチャンピオンズカップで優勝して、3冠を果たすことです。



戦術の指示を出すベン監督



元豪州代表で経験豊富な知将
レン・エトリッジ アシスタント・コーチ

Q：パース・ウィルキャッツの長所はなんだと思いますか？

A：選手層の厚さだと思います。岩野選手のような経験の多い選手から、25歳のロバート選手のようなこれから期待できる選手までいるからです。

Q：チームの修正が必要な点は何だと思いますか？

A：ディフェンスですね。もっとハイレベルな守備が必要だと思います。

Q：車椅子バスケットボールは過去と現在でどのような変化がありましたか？

A：車椅子の性能ですね。以前は車輪が傾いておらずまっすぐだったので、細かい動きが難しかったです。今は身体をひねるだけで車椅子が曲がってくれるので、バランスがもっと保てるようになりました。



直接的な指導は監督に任せると、静かに見守る眼光はチームに常に刺激を与えている。